

## 中小企業がタイで勝つためのコツと行政支援

シンガポール事務所

2月5日（金）タイ・バンコクで「世界に勝つものづくりシンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは下記の東京都関連3団体のバンコク事務所が主催し、主に在タイの日系中小企業駐在員を対象に、これらの団体の事業内容や実際に現地で活躍する企業の事例が紹介されました。

### （1）主催3団体の講演内容について

| 団体名（開設日）  | シンポジウムで紹介された事業内容等  |
|---|--|
| 東京都立<br>産業学術技術研究センター<br>（産技研）バンコク支所<br>（2015年4月1日～） | <p><b>ASEAN 地域の日系中小企業に対し材料分析や品質管理等の技術面での支援。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開設以降 250 社と面談。製造業が約半数。試験・測定・試作作成、タイの規格、委託先の企業に関する相談など。工場の本格稼働試験などの現地支援も行っている。</li> <li>○その他、品質管理技法や製品安全に関するセミナー（2回）やバンコク支所試験所ツアー等も実施。</li> <li>○日本品質PRのためには試験・分析による裏付けが必要。産技研ではそういった部分をサポートしたい。</li> </ul> |
| 東京都中小企業振興公社<br>（中小企業公社）<br>タイ事務所<br>（2015年12月21日～）  | <p><b>ASEAN 地域での取引に関する相談や情報提供、現地企業との商談会開催など、日系中小企業を経営面で支援。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○企業の進出先としてタイが非常に人気。中小企業公社の昨年度の販路開拓支援の約半数がタイ関連。</li> <li>○販路開拓支援とマッチング支援をメインに行いたい。生産委託先として優秀なタイ企業もある。</li> <li>○タイ事務所にはスペースが豊富にあるので、商談や出張時のデスクワークなどにも使ってもらいたい。</li> </ul>                     |
| 首都大学東京<br>バンコク事務所<br>（2014年4月23日～）                  | <p><b>ASEAN 地域の提携大学等との国際共同研究や学生交流、留学生フェア、帰国留学生との交流等を実施。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タイのチュラロンコン大学内にバンコク事務所を設置</li> <li>○首都大学東京が進める「都市の課題解決に資する高度研究」では、アジアの諸都市に共通する課題の解決を研究しており、タイのチュラロンコン大学やタマサート大学と共同研究や学生の交流を行っている。</li> </ul>  |

産技研及び中小企業公社は東京都関連の団体ですが、他の地域から進出した企業であっても相談を受け付けたいとのことですので、海外進出を図る地元企業への支援の一環として有益な情報と思われれます。

## (2) タイ人の「マイペンライ」とは？

シンポジウムではタイに進出している日系製造業 2 社の方から、タイにおける企業運営について実体験に基づいた講演がありました。

それぞれの企業が特に考慮している点は「いかにタイ人従業員の特徴をつかみ良好な関係を築くか」という部分です。

日系企業の講演によると・・・、

- **タイ人の特徴**：素直で冷静だが、あまり人に干渉せず（同僚・部下にも）、厳しく接されることを好まない。楽観主義で失敗しても**マイペンライ（大丈夫）**。ジョブホッピングは日常的で離職率高い。
- **タイ人とウマくやるためには**：仕事中心ではなく、まずは人間関係を構築して組織にロイヤルティを持たせることが大事。ある日系企業は企業内で新年会やスポーツ大会を実施し帰属意識を向上。「床に座ってくつろぎたい」という習慣があるタイ人のために休憩室を改造したり、帰省することが多い大型連休の前日は早めに終業したりする工夫で離職率を下げた企業も。

とのことでした。

海外進出の際にはこういった先輩企業の実践的な努力や工夫を参考にすることで、「転ばぬ先の杖」とすることができるのではないのでしょうか。

CLAIR

(加藤所長補佐 北九州市派遣)